



平成26年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年8月8日

上場会社名 グリーンランドリゾート株式会社
コード番号 9656 URL <http://www.greenland.co.jp/>

上場取引所 東 福

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 江里口俊文

問合せ先責任者 (役職名) 取締役経理部長

(氏名) 渡邊和雄

TEL 0968-66-2111

四半期報告書提出予定日 平成26年8月14日

配当支払開始予定日

平成26年9月2日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年12月期第2四半期の連結業績(平成26年1月1日～平成26年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年12月期第2四半期	3,660	△5.9	61	△52.6	34	△68.6	19	△76.4
25年12月期第2四半期	3,889	6.6	129	194.8	108	898.4	84	779.8

(注) 包括利益 26年12月期第2四半期 24百万円 (△78.5%) 25年12月期第2四半期 112百万円 (1,395.9%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年12月期第2四半期	1.92	—
25年12月期第2四半期	8.23	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年12月期第2四半期	21,476	10,317	48.0	998.05
25年12月期	21,800	10,355	47.5	1,001.72

(参考) 自己資本 26年12月期第2四半期 10,317百万円 25年12月期 10,355百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年12月期	—	4.00	—	6.00	10.00
26年12月期	—	3.00	—	—	—
26年12月期(予想)	—	—	—	5.00	8.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年12月期の連結業績予想(平成26年1月1日～平成26年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	7,820	△0.7	320	△11.3	280	△9.6	180	△6.1	17.41

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

26年12月期2Q	10,346,683 株	25年12月期	10,346,683 株
26年12月期2Q	9,149 株	25年12月期	9,149 株
26年12月期2Q	10,337,534 株	25年12月期2Q	10,217,534 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく監査手続の対象外であり、この決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく連結財務諸表に対する監査手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる場合があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用に当たっての注意事項については、[添付資料]4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
(4) 追加情報	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における当社グループを取り巻く環境は、緩やかな景気回復の状況のもと、個人消費の回復が感じられる面も見られました。

このような状況の中、当社グループは、「常に変化を求めて」のテーマのもと、全体を見据えたうえで、自ら仕掛け、戦略的に変革を起こすことで、グループのさらなる発展に取り組んでまいりました。

しかしながら、主力事業である九州の遊園地事業が、春休みや週末など悪天候に見舞われたこともあり、結果として低調に推移したため、当第2四半期連結累計期間の売上高は3,660,910千円（前年同期比5.9%減）となり、営業利益は61,364千円（前年同期比52.6%減）、経常利益は34,203千円（前年同期比68.6%減）、四半期純利益は19,858千円（前年同期比76.4%減）となりました。

	当第2四半期 連結累計期間 (千円)	前第2四半期 連結累計期間 (千円)	増減額 (千円)	増減率 (%)
売上高	3,660,910	3,889,712	△228,802	△5.9
営業利益	61,364	129,517	△68,152	△52.6
経常利益	34,203	108,854	△74,651	△68.6
四半期純利益	19,858	84,078	△64,219	△76.4

報告セグメントごとの業績は、次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分を変更しており、以下の前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

① 遊園地セグメント

今春、九州の『グリーンランド』におきましては、メインイベントを「超決戦バトルステージ」と題し、期間を3つに分け、第一部の3月1日から3月28日の28日間は、獣電戦隊キョウリュウジャーをメインキャラクターとし、「獣電戦隊キョウリュウジャー 超決戦バトルステージ」を、第二部及び第三部は、仮面ライダー鎧武をメインキャラクターとし、3月29日から4月25日の28日間は、「仮面ライダー鎧武 超決戦バトルステージ 昭和英雄伝」を、4月26日から6月1日にかけての37日間及び6月7日から6月29日までの土・日にかけての8日間は、「仮面ライダー鎧武 超決戦バトルステージ 平成英雄伝」を開催し、バイクパフォーマンスやワイヤーアクションを駆使したショーを、ここでしか見ることのできないスケールで開催いたしました。さらに、3月15日から5月6日にかけては、「マジ展—マジカルアドベンチャー—inグリーンランド」と題し、10代・20代の女性を中心に人気が高いアニメ「マジ」を題材とした展示イベントを、イベントホールにて開催するほか、飲食店舗でのコラボメニューの販売や、特別イベントとして、アニメ声優のトークショーを開催するなど、若者層の集客を図りました。その他にも、「スプリングキッズパレード」と題し、3月29日に「きかんしゃトーマスキャラクターショー」、3月30日に「ワンワンとあそぼうショー」、ゴールデンウィークに「ハビネスチャージプリキュア！ショー」をそれぞれ開催し、ファミリー層の集客に努めました。また、前売券販売におきましても、販売箇所の見直しや、園内食事利用券付前売券を販売するなど、売上高の拡大に努めました。さらに、年間を通して開催されるイベントの充実や、施設の改善・拡充のため、6月2日に入園料の改定も実施しました。

以上の取り組みを行ってまいりましたが、春休みや4月の週末及びゴールデンウィークなどの悪天候の影響を受け、集客が低調に推移したため、利用者数は前年同期比55,177人減少の378,575人となり、売上高は前年同期比310,851千円減収（△16.2%）の1,603,532千円となりました。

『北海道グリーンランドホワイトパーク（スキー場）』におきましては、平年の倍近くの積雪及び低温の影響で、1月の3連休と2月上旬は伸び悩んだものの、その後は新規団体の取り込みなどにより順調に推移したため、利用者数及び売上高は昨年を上回る結果となりました。

『北海道グリーンランド遊園地』におきましては、「わんわん大サーカス」や、人気キャラクターを起用した「4大ヒーロー&ヒロイン大集合」を開催し、集客に努めた結果、ゴールデンウィーク期間の好天及びフリーパスの料金改定による客単価増加も功を奏し、順調に業績を伸ばすことが出来ました。

また、いわみざわ公園管理につきましても、バラ園の魅力度アップに向け、つるバラの生育に注力するとともに、その情報発信に取り組むことで、集客に努めました。

この結果、スキー場と合わせた利用者数は前年同期比16,583人増加の106,376人となり、売上高は前年同期比61,755千円増収（+26.1%）の298,058千円となりました。

以上の結果、利用者数は前年同期比38,594人減少の484,951人となり、売上高は前年同期比260,266千円減収（△12.0%）の1,901,591千円となり、営業利益は前年同期比71,226千円（△28.7%）減益の177,210千円となりました。

② ゴルフセグメント

『グリーンランドリゾートゴルフコース』におきましては、多彩なイベントを開催するほか、コース内ではティーインググラウンドの拡張、整備などにより、快適なプレー環境の提供に取り組みました。また、樹木伐採により、コース景観に変化をつけることで、これまでと違った楽しみ方を感じていただけるように努めました。クラブハウスでは、男性浴室の改修や、全身シャワーの導入により、利便性の向上を図りました。さらに、女性ロッカーの床張り替えや、アメニティセットの提供を開始するなど、女性ゴルファーの満足度を高めるサービスにも取り組みました。

『大牟田ゴルフ場』におきましては、大型コンペの誘致や、イベント開催による集客に努めるとともに、コース整備では、レディースティーの新設、橋梁の塗装、樹木選定によるコース内の景観向上などに取り組みました。

『広川ゴルフ場』におきましては、様々なイベントの開催による集客活動に加え、安全面にも配慮した打ち込み防止センサーの取り付け及び男性トイレの改修など、設備の改善に取り組みました。

なお、メンバーズゴルフ場の『大牟田ゴルフ場』及び『広川ゴルフ場』におきましては、キャディ付プレーの特典を充実させ、積極的な販売に努めました。

相互施設利用契約におきましては、韓国の大邱(テグ)カントリークラブと新たに契約を締結し、韓国、中国及び北海道から周辺施設利用を含めた集客を図るとともに、3ゴルフ場の付加価値の向上に取り組みました。

以上の取り組みの結果、利用者数は前年同期比971人増加の68,091人、売上高は前年同期比14,404千円増収(+3.0%)の496,337千円となり、営業利益は6,207千円(前年同期は営業損失8,522千円)となりました。

③ ホテルセグメント

『ホテルブランカ』及び『ホテルヴェルデ』におきましては、遊園地内のショップに両ホテルのPRコーナーを設け、情報発信に注力するとともに、相互の人材交流により運営の効率化に努めました。

『ホテルブランカ』におきましては、パスカワールド(ボウリング場)利用と鍋バイキングをセットにしたプランの設定による集客に努めるとともに、お客様がホテルヴェルデのトレヴィイやグリーンスターを利用する際の無料送迎や、期間限定で宿泊者のお食事をお部屋で提供するサービスを開始し、顧客満足度の向上に注力しました。また、遊園地やウォーターパークへの通路及びその周辺環境整備を行うことで、景観の向上に取り組みました。

『ホテルヴェルデ』におきましては、遊園地の春のイベント開催にあわせ、「仮面ライダー鎧武ルーム」を期間限定で新設し、「ゆるっくまルーム」を含めた特徴ある客室の販売に努めることに加え、台湾を中心とした海外からの宿泊客の獲得に取り組みました。また、外部に委託していたショップを直営化することで、運営方法の改善や取扱商品の充実を図り、売上高の拡大に努めました。レストラン部門では、日本料理「小岱」において、第27回全国日本料理コンクール郷土料理部門で東京都知事賞を受賞した料理長による郷土会席を提供し、満足度の向上を図るとともに、積極的な情報発信に注力し、話題性の喚起にも努めました。また、「トレヴィイ」を夜をメインとした高級感漂うバーラウンジに改装する一方、昨年オープンしたカフェ&バー「グリーンスター」では、ランチメニューを強化するなど、各店舗で異なる趣向を凝らした空間の提供に取り組みました。さらに、解放感のあるデッキで、アフタヌーンティーセットなどが楽しめるオープンカフェテラスをメインエントランス横に設置し、新たな需要創出に注力しました。婚礼部門では、演出やサービスの充実により、それぞれのお客様のニーズに応えるとともに、婚礼試食会を最大限に活用した高単価料理の提案や、打上花火などの演出オプションの積極的案内により、売上高の拡大に努めました。また、一般宴会部門では、カニやステーキなどが食べ放題の「海の幸祭り2014」を開催し、集客に取り組みました。

また、昨年11月より遊園地内ショップの大型2店舗の撤退に伴い、その営業を引き継ぐことで売上高の拡大を図り、加えて既存の各店舗でも商品構成の見直しに取り組みました。さらに、ギフト商品販売・保険代理店部門では、営業活動の強化や取扱商品の充実にも努めました。

『ホテルサンブラザ』ならびに『北村温泉ホテル』におきましては、地域に根付いたリピーターを飽きさせない商品・サービスの提供に取り組みました。

『ホテルサンブラザ』におきましては、焼酎フェア、カニバイキング、ステーキ食べ放題、生バンドにあわせダンスが楽しめるサマーナイトパーティーなどのイベントを開催し、集客に努めました。また、婚礼部門では、人気が高まってきているバラ園におけるウェディングのPRを強化し、婚礼客の獲得に注力しました。

『北村温泉ホテル』におきましては、おんせんクラブ43会員の特典内容を充実するとともに、様々なイベントを開催し、集客に努めました。レストラン部門では、限られた店舗でのみ販売を許されるビール「スーパードライ・エクストラコールド」の販売開始や、ショップの商品構成の見直しにより、単価アップに取り組みました。また、4月より新たに北村中央公園・桜づつみ公園の指定管理者を受託し、北村温泉エリアを一体とした開発にも注力しました。

以上の結果、宿泊者数は『ホテルヴェルデ』及び『ホテルサンプラザ』の宿泊者数減少及び婚礼・宴会部門の伸び悩みにより、利用者数は前年同期比3,695人減少の40,099人となったものの、遊園地内のショップの売上高が伸びたことにより、売上高は前年同期比34,877千円増収(+3.6%)の992,700千円となり、営業損失は前年同期比2,136千円損失増の59,557千円となりました。

④ 不動産セグメント

不動産事業における賃貸収入につきましては、社有地へのメガソーラー事業誘致による増加はあったものの、ウルトラマンランド営業終了に伴う土地賃貸契約解約による減少に伴い、売上高は前年同期比2,790千円減収(△3.4%)の80,074千円となり、営業利益は前年同期比9,136千円(△15.9%)減益の48,412千円となりました。

⑤ 土木・建設資材セグメント

土木・建設資材事業におきましては、土木工事の受注及び客土販売の減少により、売上高は前年同期比15,027千円減収(△7.3%)の190,206千円となり、営業利益は前年同期比1,940千円(+5.9%)増益の34,687千円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 流動資産

流動資産は、493,976千円(前連結会計年度末比248,235千円減少)となりました。主な要因は、現金及び預金で84,710千円、受取手形及び売掛金で144,093千円減少したことによるものであります。

② 固定資産

固定資産は、20,982,621千円(前連結会計年度末比75,717千円減少)となりました。主な要因は有形固定資産の減価償却等で91,615千円減少したことによるものであります。

③ 流動負債

流動負債は、4,336,855千円(前連結会計年度末比196,592千円減少)となりました。主な要因は未払金で82,233千円、未払法人税等で93,451千円減少したことによるものであります。

④ 固定負債

固定負債は、6,822,351千円(前連結会計年度末比89,466千円減少)となりました。主な要因は長期預り金で96,600千円減少したことによるものであります。

⑤ 純資産

純資産は、10,317,391千円(前連結会計年度末比37,894千円減少)となりました。主な要因は利益剰余金で42,166千円減少したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年12月期の業績予想につきましては、平成26年8月1日に公表いたしました数値から変更はありません。なお、業績予想につきましては、現時点において得られた情報に基づき算出したものであり、実際の業績は今後の経済情勢の変化や事業運営におけるさまざまな状況変化によって、予想の数値と異なる場合があります。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

(4) 追加情報

(連結納税制度の適用)

当社及び連結子会社は、第1四半期連結会計期間より、当社を連結親会社とした連結納税制度を適用しております。

(法定実効税率の変更に伴う影響)

「所得税法等の一部を改正する法律」が平成26年3月31日に公布され、平成26年4月1日以後に開始する連結会計年度から復興特別法人税が課されないこととなりました。これに伴い、当連結会計年度の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用した法定実効税率は、平成27年1月1日に開始する連結会計年度に解消が見込まれる一時差異について、37.75%から35.38%に変更されております。これによる影響は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	241,291	156,581
受取手形及び売掛金	291,266	147,173
商品及び製品	37,236	14,330
原材料及び貯蔵品	57,395	55,153
販売用不動産	7,130	7,130
繰延税金資産	24,959	14,933
その他	95,880	103,842
貸倒引当金	△12,948	△5,168
流動資産合計	742,212	493,976
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	4,486,211	4,388,070
機械装置及び運搬具(純額)	415,261	395,398
土地	15,073,825	15,081,204
その他(純額)	152,356	171,365
有形固定資産合計	20,127,654	20,036,039
無形固定資産		
その他	227,098	227,777
無形固定資産合計	227,098	227,777
投資その他の資産		
投資有価証券	267,489	274,107
繰延税金資産	302,641	302,813
その他	143,240	151,543
貸倒引当金	△9,783	△9,659
投資その他の資産合計	703,586	718,804
固定資産合計	21,058,339	20,982,621
資産合計	21,800,551	21,476,598

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	81,455	49,611
営業未払金	100,271	85,267
短期借入金	3,767,513	3,813,561
未払金	308,933	226,700
未払法人税等	118,965	25,513
役員賞与引当金	10,630	—
その他	145,679	136,202
流動負債合計	4,533,448	4,336,855
固定負債		
長期借入金	3,408,796	3,413,951
長期預り金	3,295,991	3,199,391
退職給付引当金	9,059	8,514
その他	197,970	200,493
固定負債合計	6,911,818	6,822,351
負債合計	11,445,266	11,159,207
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,180,101	4,180,101
資本剰余金	4,767,834	4,767,834
利益剰余金	1,384,246	1,342,079
自己株式	△2,992	△2,992
株主資本合計	10,329,189	10,287,023
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	26,095	30,368
その他の包括利益累計額合計	26,095	30,368
純資産合計	10,355,285	10,317,391
負債純資産合計	21,800,551	21,476,598

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年6月30日)
売上高	3,889,712	3,660,910
売上原価	3,464,098	3,309,295
売上総利益	425,613	351,614
販売費及び一般管理費	296,096	290,250
営業利益	129,517	61,364
営業外収益		
受取利息	55	16
受取配当金	3,165	3,143
受取賃貸料	2,828	2,726
受取保険金	12,470	835
助成金収入	1,865	—
雑収入	1,717	1,970
営業外収益合計	22,102	8,693
営業外費用		
支払利息	41,864	35,468
雑損失	899	385
営業外費用合計	42,764	35,854
経常利益	108,854	34,203
特別利益		
固定資産売却益	9,073	5,400
受取保険金	58,980	—
その他	8,243	—
特別利益合計	76,297	5,400
特別損失		
固定資産除売却損	1,011	—
災害による損失	9,555	—
廃棄費用	5,559	—
特別損失合計	16,126	—
税金等調整前四半期純利益	169,025	39,603
法人税、住民税及び事業税	79,633	12,312
法人税等調整額	5,314	7,432
法人税等合計	84,947	19,744
少数株主損益調整前四半期純利益	84,078	19,858
四半期純利益	84,078	19,858

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年1月1日 至 平成25年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年1月1日 至 平成26年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	84,078	19,858
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	28,094	4,272
その他の包括利益合計	28,094	4,272
四半期包括利益	112,172	24,131
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	112,172	24,131
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	169,025	39,603
減価償却費	207,964	206,765
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	△4,711	△544
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	△42,538	—
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	2,614	△7,903
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	—	△13,730
受取利息及び受取配当金	△3,220	△3,160
支払利息	41,864	35,468
受取保険金	△71,451	△835
固定資産除売却損益 (△は益)	△8,062	△5,400
売上債権の増減額 (△は増加)	72,571	135,934
たな卸資産の増減額 (△は増加)	28,535	25,148
仕入債務の増減額 (△は減少)	△26,877	△46,847
未払金の増減額 (△は減少)	△349	△34,582
未払消費税等の増減額 (△は減少)	18,336	△0
その他	4,162	△24,051
小計	387,863	305,864
利息及び配当金の受取額	3,220	3,160
利息の支払額	△41,576	△36,603
保険金の受取額	12,770	835
法人税等の支払額	△72,391	△105,085
営業活動によるキャッシュ・フロー	289,886	168,172
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△3,000	△3,500
定期預金の払戻による収入	—	800
有形固定資産の取得による支出	△325,687	△140,228
有形固定資産の売却による収入	10,380	6,082
無形固定資産の取得による支出	△897	△2,190
投資有価証券の売却による収入	13,200	—
その他	1,630	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△304,373	△139,036
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	184,150	15,000
長期借入れによる収入	670,000	730,000
長期借入金の返済による支出	△793,409	△693,797
長期預り金の返還による支出	△104,700	△96,600
リース債務の返済による支出	△4,873	△9,377
配当金の支払額	△40,931	△61,771
財務活動によるキャッシュ・フロー	△89,764	△116,546
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△104,250	△87,410
現金及び現金同等物の期首残高	310,870	239,791
現金及び現金同等物の四半期末残高	206,619	152,381

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自平成25年1月1日至平成25年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	遊園地事業	ゴルフ事業	ホテル事業	不動産事業	土木・建設 資材事業	計		
売上高								
外部顧客への売上高	2,161,857	481,932	957,823	82,864	205,233	3,889,712	—	3,889,712
セグメント間の内部売上 高又は振替高	1,929	5,568	56,026	8,730	11,742	83,997	△83,997	—
計	2,163,787	487,501	1,013,849	91,594	216,976	3,973,710	△83,997	3,889,712
セグメント利益又は損失(△)	248,437	△8,522	△57,421	57,549	32,747	272,789	△143,272	129,517

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用△140,444千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成26年1月1日至平成26年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	遊園地事業	ゴルフ事業	ホテル事業	不動産事業	土木・建設 資材事業	計		
売上高								
外部顧客への売上高	1,901,591	496,337	992,700	80,074	190,206	3,660,910	—	3,660,910
セグメント間の内部売上 高又は振替高	1,773	5,642	12,877	3,903	4,466	28,664	△28,664	—
計	1,903,364	501,980	1,005,578	83,978	194,673	3,689,574	△28,664	3,660,910
セグメント利益又は損失(△)	177,210	6,207	△59,557	48,412	34,687	206,961	△145,596	61,364

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用△145,836千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

グループ再編の一環として、平成25年4月1日に連結子会社である有明リゾートシティ株式会社が連結子会社であるグリーンランドサービス株式会社を吸収合併し、「その他の事業」のうち、大部分を占めていた労働者派遣業務を廃止いたしました。

第1四半期連結会計期間より、報告セグメント区分の見直しを行い、有明リゾートシティ株式会社の「遊園地事業」を「ホテル事業」に変更しております。また、「その他の事業」につきましては、労働者派遣業務の廃止により量的な重要性がなくなったため、「ホテル事業」に含めております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成したものを記載しております。